

研究者紹介 **私の研究**

動物研究部 陸生無脊椎動物研究グループ

おのひろつく **小野 展嗣** 研究主幹



『クモの世界』

それこそ雲をつかむようなはなしですが、「クモ学」という希少な学問分野がありまして世界に1,000人ほどの研究者がいます。生態学、発生学、生理学、系統学そして分類学などあらゆる方法を駆使してこの摩訶不思議な8本脚の動物を理解しようという自然史科学の一分野です。

クモの研究者の世界は良く組織されていて、毎年どこかで国際会議が開催されています。また、私が編集者の一人を務めるWorld Spider Catalogというウェブサイト (<http://www.wsc.nmbe.ch>) では、その時点の世界中のクモ（現在約46,000種）の分類に関する情報を誰でも瞬時に得ることができます。

とくにハラフシグモ類をずっと追っています。古生代の化石が知られ、今の地球では東アジア（日本、中国、ミャンマー、ベトナム、タイ、ラオス、マレー半島、スマトラ島）だけに生息する原始的な仲間です。環境の良い森林に生息し、地中にトンネル状の巣を作ります。

ハラフシグモ属の一種♀（ハラフシグモ科）：タイ国産、体長約30mm  
 チョウや甲虫などとちがい、クモ類は液浸標本にします。調査や研究の方法は昆虫類と同じです。



コガネグモ♀（コガネグモ科）：日本を代表する大型種、体長27mm



キムラグモ♀（ハラフシグモ科）：鹿児島産、体長12mm

研究者に聞いてみました！

- 1) やりがいを感じるのとはどのようなときですか  
 自分の論文が海外の研究者に影響を与えたと感じたときです。先駆的な仕事が国際クモ学会賞(2010)の受賞に繋がりました。
- 2) 研究する上での苦勞や悩みなどはありますか  
 象1頭と虫1匹がもっている情報はそれほど変わらないのですが、虫の研究は世間一般には軽視されがちで、場所を取らない利点

が生かされていないように思います。

- 3) 今の職業に就いていなければ何をしていると  
 思いますか  
 大学卒業時、銀行へ勤めるのをやめてドイツへ留学。科博に就職するときには外務省に内定していたのを断りました。どちらも大きな岐路でした。
- 4) 座右の銘や本などがあればご紹介ください  
 「ローマは一日にして成らず」(英国のことわざ)、「理系には文学・芸術を、文系には

理科の合理性を」(福井謙一)、「塩の辛さや砂糖の甘さは学問では理解できないが、なめてみればすぐ分かる」(松下幸之助)。「約束されぬ地の眺め—ある動物学者の歩み」(丸山工作著)。

